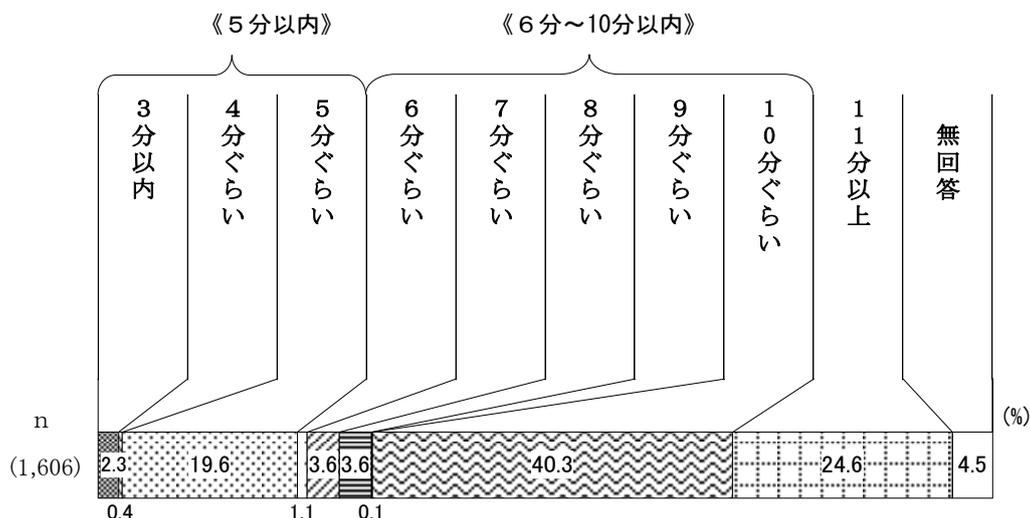


### 3. 救急救命・救急講習について

#### (1) 救急車の予想到着時間

問6 あなたがもし、119番通報で自宅に救急車を呼んだ場合、近くの消防署から救急車が何分くらいであなたのお宅へ到着すると思いますか。□の中に数字を記入してください。

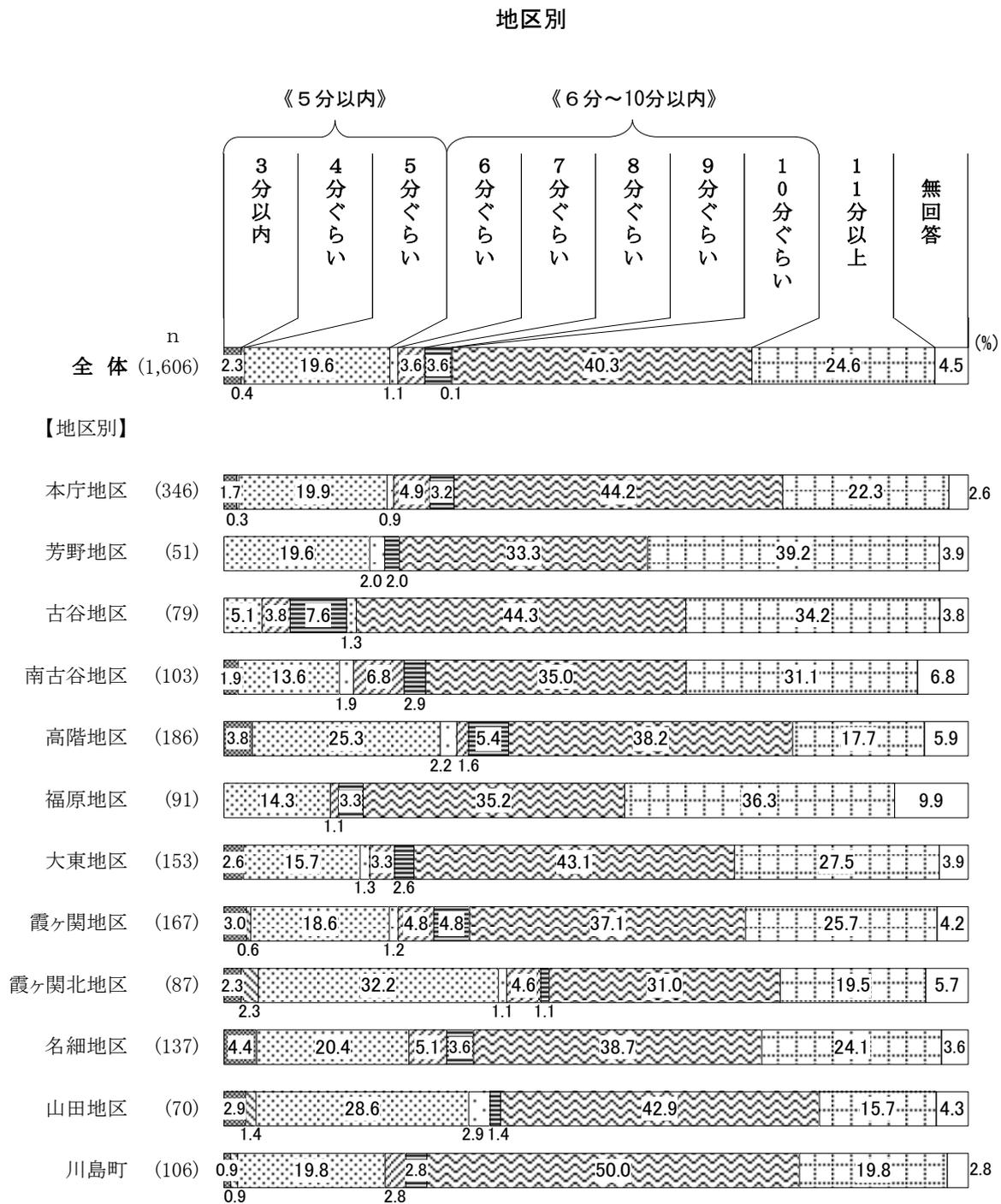


自宅に救急車を呼んだ場合、近くの消防署から救急車がどのくらいで到着すると思うかをまとめたのが上の図である。平均は約10分であった。

詳細にみると、「10分くらい」が40.3%と最も多く、「11分以上」が24.6%、「5分くらい」が19.6%の順となっている。

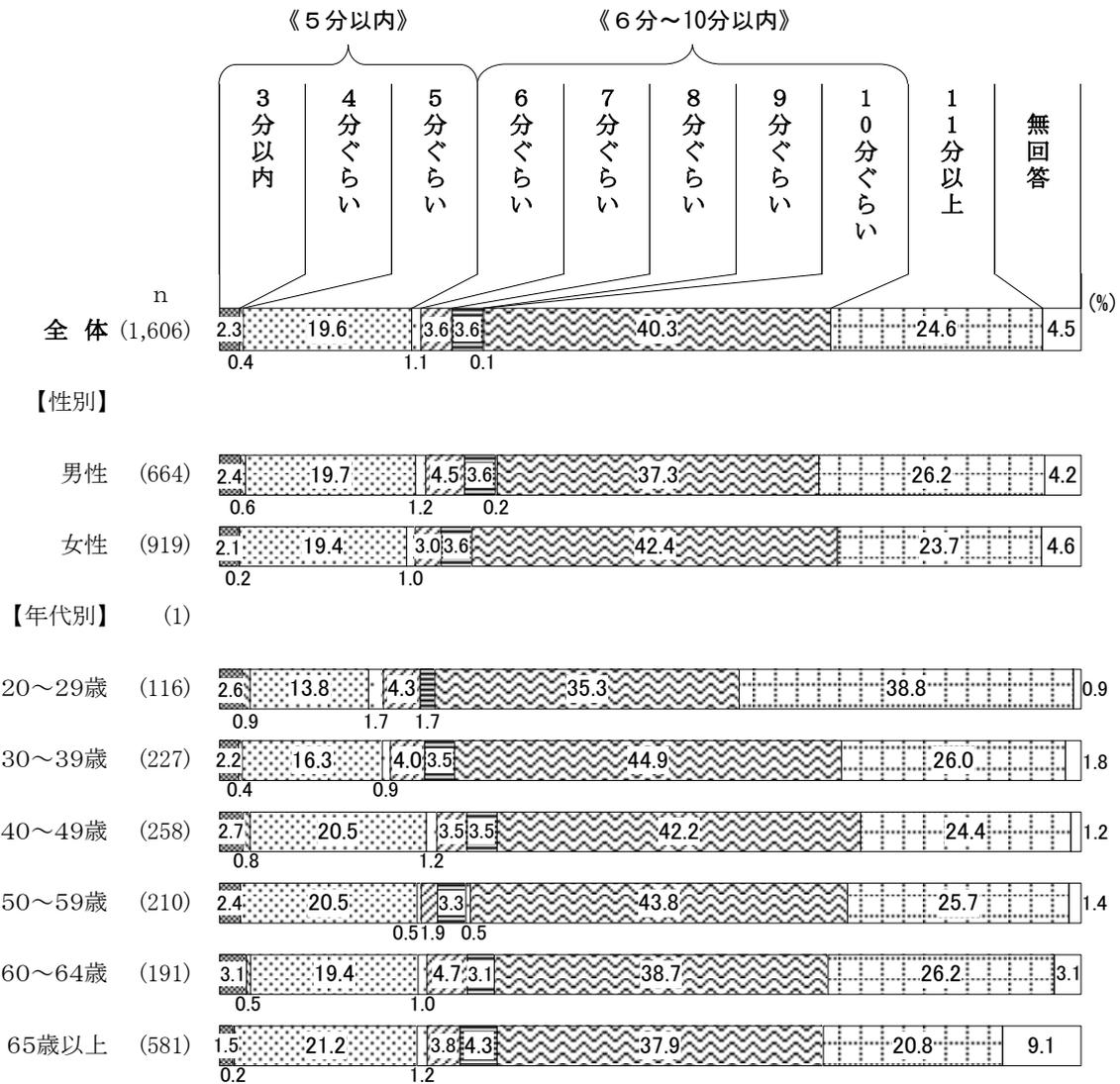
《5分以内》と整理した場合では22.3%、《6分~10分以内》は48.7%となっており、6分以上と考える人が多くなっている。

地区別にみると、ほとんどの地区で《6分～10分以内》が多くなっているが、霞ヶ関北地区（36.8%）と山田地区（32.9%）では《5分以内》が3割台と比較的多く、芳野地区では「11分以上」が4割近くと多くなっている。



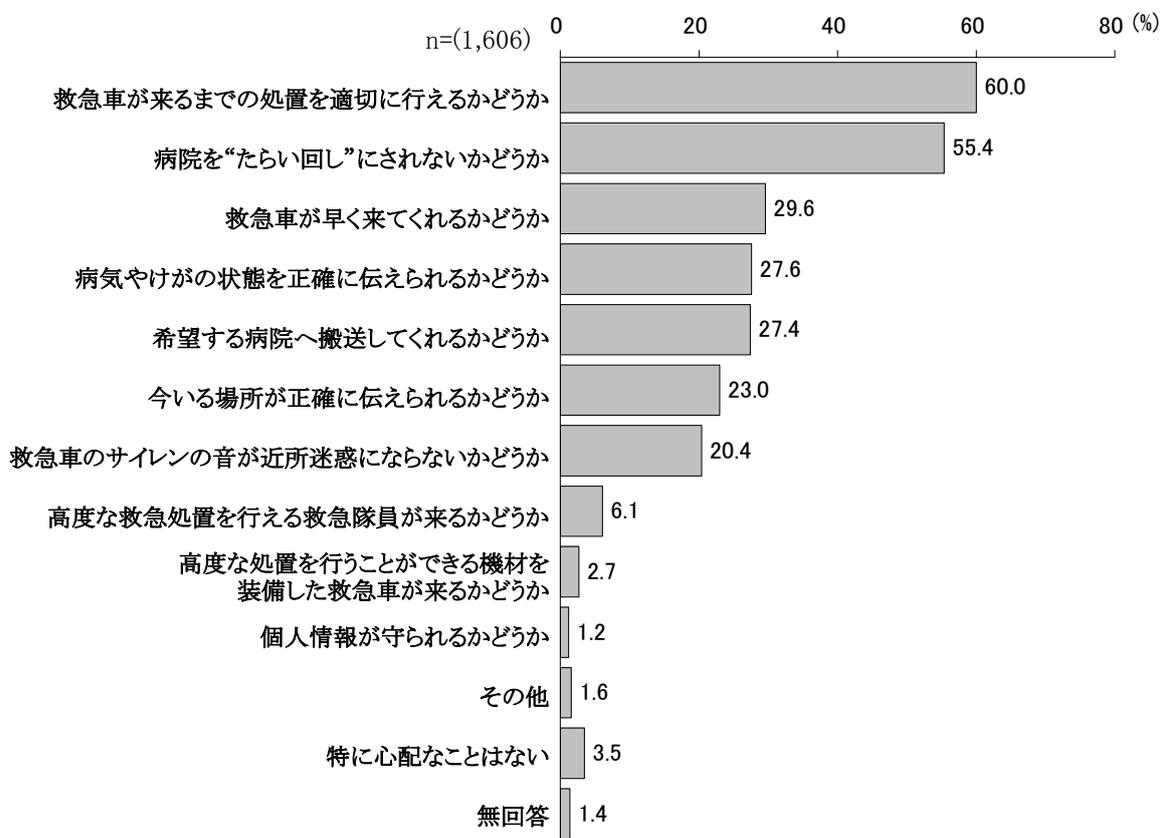
性別、年代別にみても大きな違いはなく、いずれも「10分ぐらい」が最も多くなっている。

性別／年代別



## (2) 救急車を呼ぶ際に心配なこと

問7 あなたがもし、119番通報で救急車を呼ぶとした場合、心配なことは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)

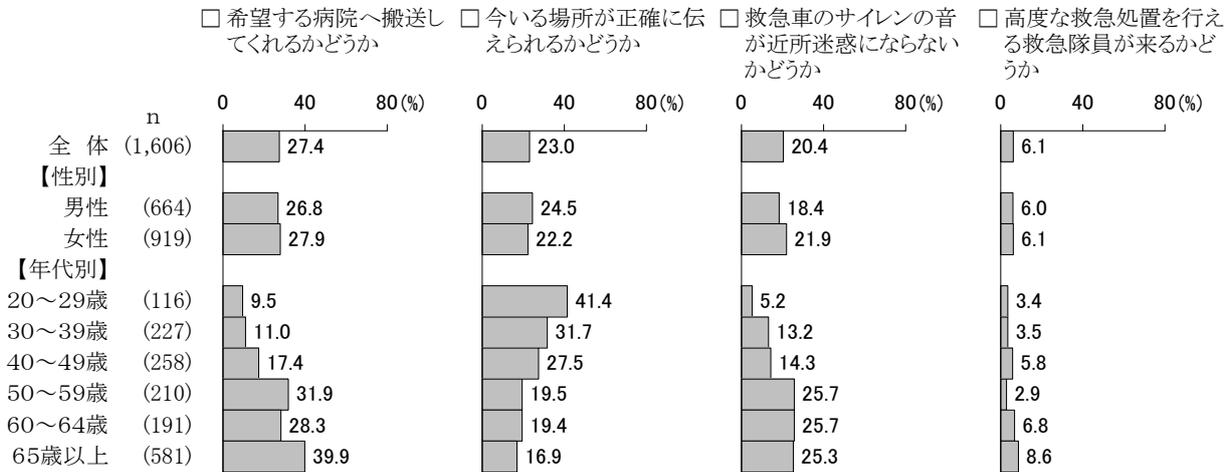
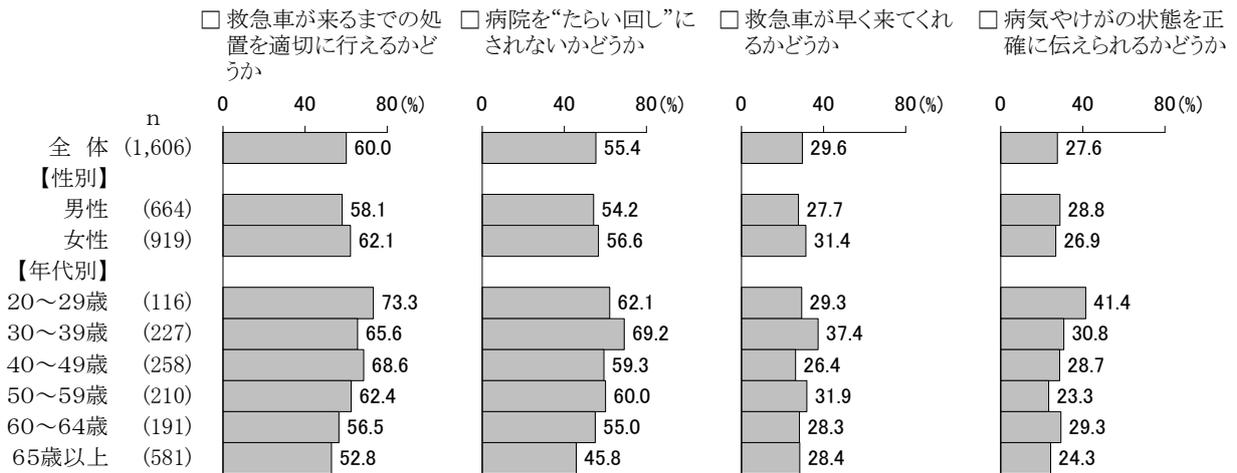


119番通報で救急車を呼ぶ際に心配なことは、「救急車が来るまでの処置を適切に行えるかどうか」が60.0%、「病院を“たらい回し”にされないかどうか」が55.4%でこの2項目が特に多くなっている。以下、「救急車が早く来てくれるかどうか」(29.6%)、「病院やけがの状態を正確に伝えられるかどうか」(27.6%)、「希望する病院へ搬送してくれるかどうか」(27.4%)、「今いる場所が正確に伝えられるかどうか」(23.0%)、「救急車のサイレンの音が近所迷惑にならないかどうか」(20.4%)が2割台で続いている。

性別にみても大きな違いはみられない。

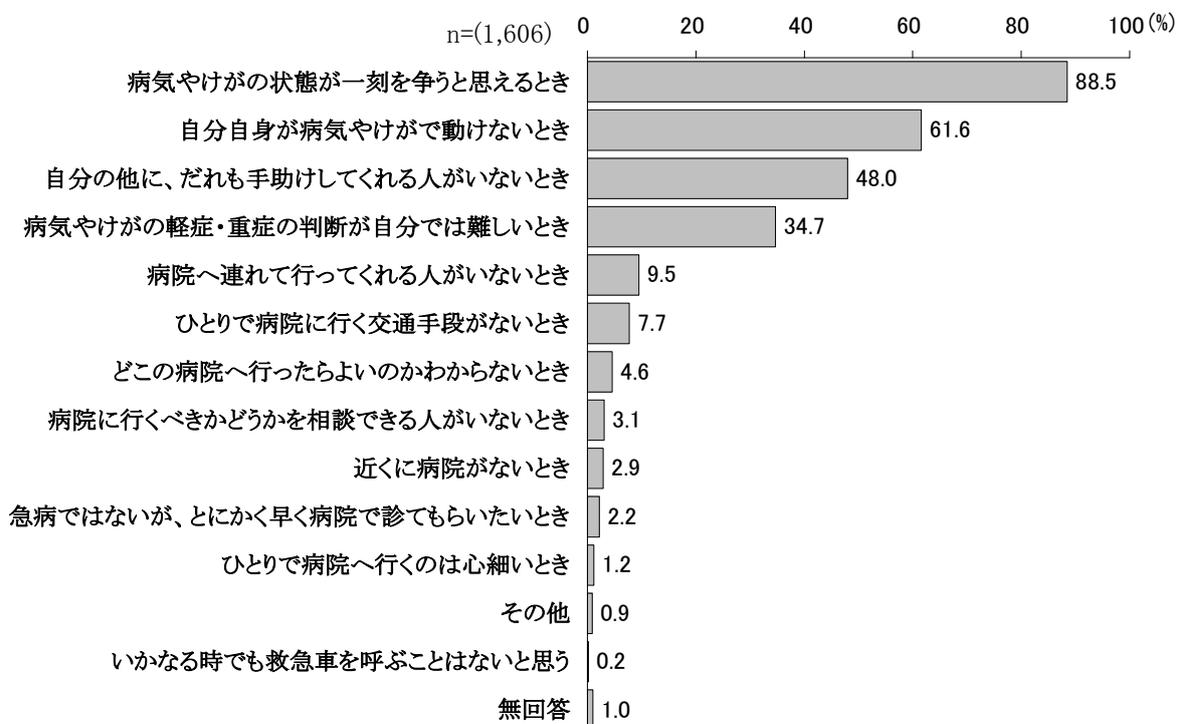
年代別にみても上位2項目への不安は変わらない。この他では、20～29歳、30～39歳では「救急車が早く来てくれるかどうか」、「病気やけがの状態を正確に伝えられるかどうか」、あるいは「今いる場所が正確に伝えられるかどうか」など、到着までの不安がより多くなっている。一方、50歳代以上では「希望する病院へ搬送してくれるかどうか」及び「救急車のサイレンの音が近所迷惑にならないかどうか」への不安がより多くみられる。

### 性別／年代別（上位8項目）



### (3) 救急車を要請するケース

問8 急病やけがなど、いざという時には救急車を要請する必要があります。あなたが、救急車を呼ぶ「いざ」という時とは、どのような場合ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はあてはまるものすべて)

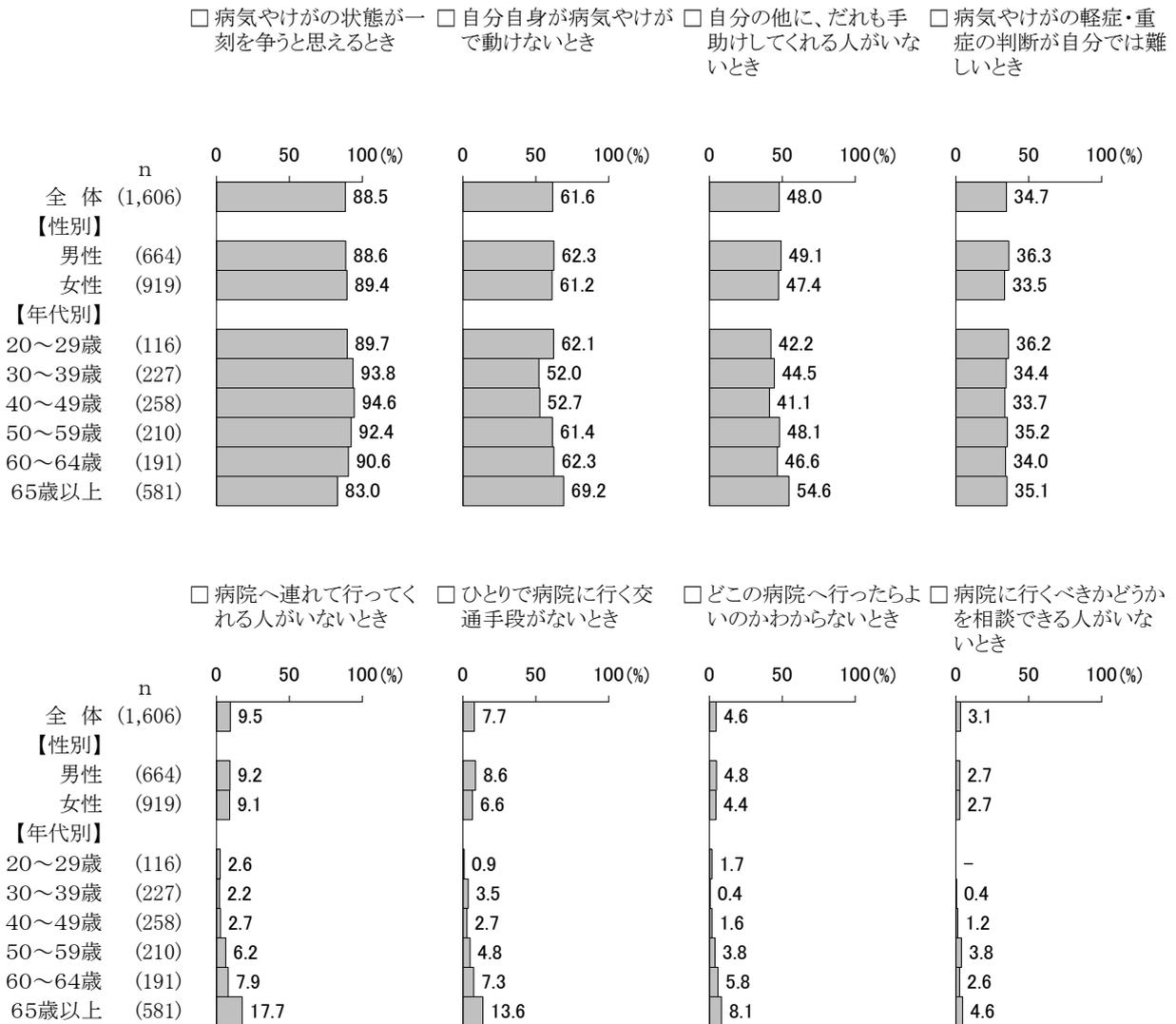


救急車を呼ぶような「いざ」という時としては、「病气やけがの状態が一刻を争うと思えるとき」が88.5%で特に多く、以下、「自分自身が病气やけがで動けないとき」(61.6%)、「自分の他に、だれも手助けしてくれる人がいないとき」(48.0%)、「病气やけがの軽症・重症の判断が自分では難しいとき」(34.7%)などが続いている。また、「病院へ連れて行ってくれる人がいないとき」、「ひとりで病院に行く交通手段がないとき」、「どこの病院へ行ったらよいかかわからないとき」など必ずしも緊急とは言えない場合も一定数あげられている。

性別による大きな違いはみられない。

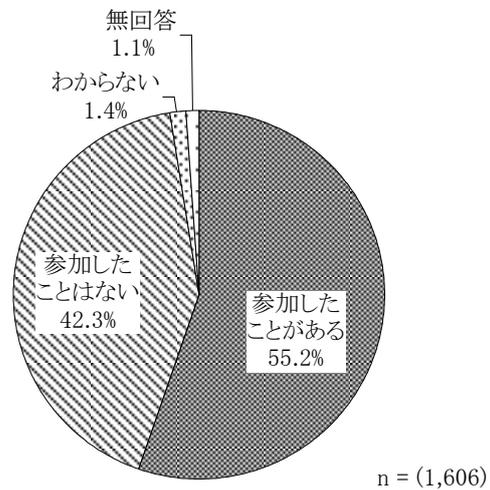
年代別にみても、上位4項目に大きな違いはみられない。この他では、65歳以上では「病院へ連れて行ってくれる人がいないとき」が17.7%、「ひとりで病院に行く交通手段がないとき」が13.6%と他の年代に比べて多くなっている。

### 性別／年代別（上位8項目）



#### (4) 救急・救命講習会または応急手当講習会への参加経験

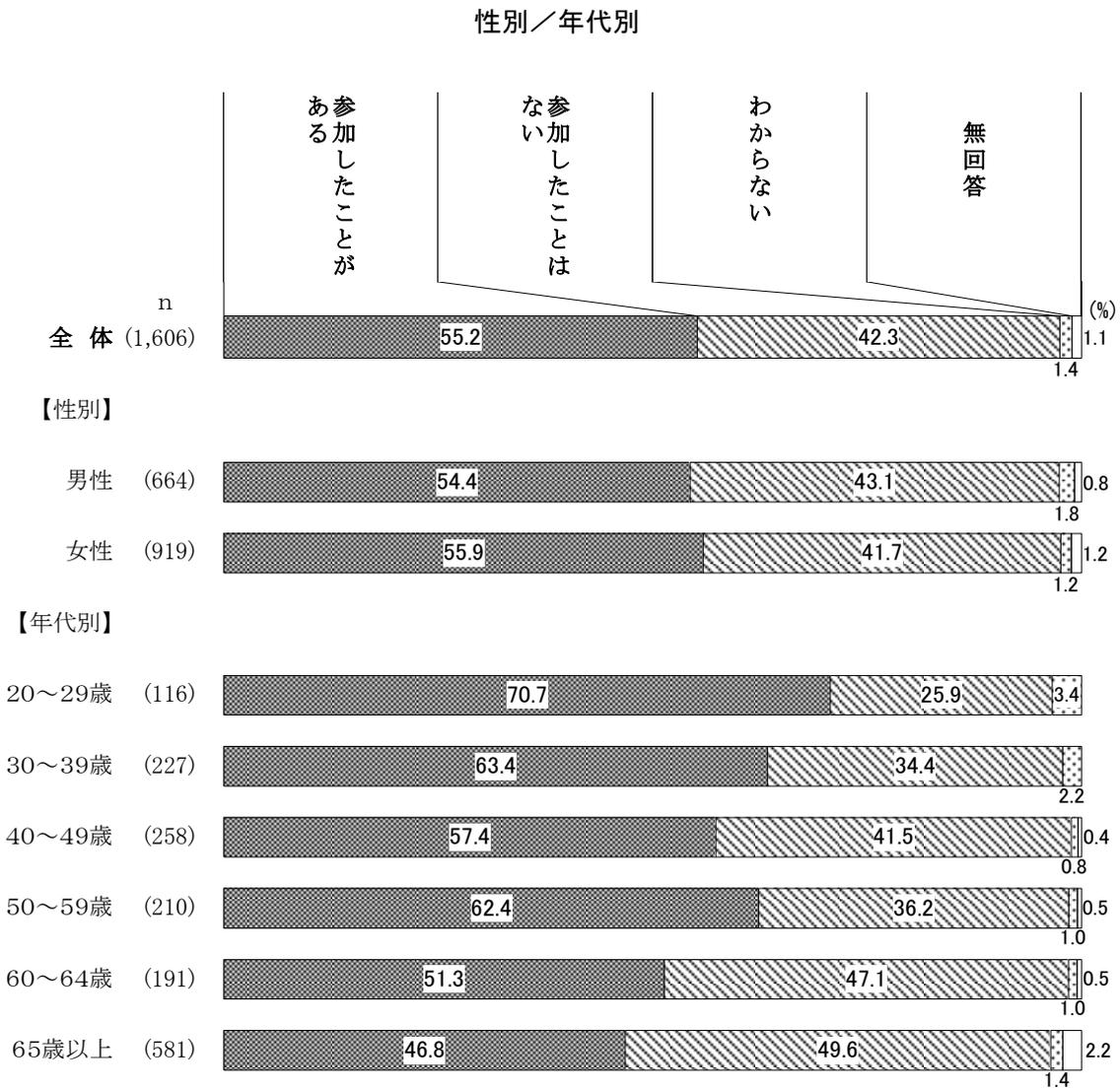
問9 あなたはこれまでに、救急・救命講習会または応急手当講習会に参加したことがありますか。(地域で開催しているものや、お勤めの会社、学校などで行われたものも含みます。)(○は1つ)



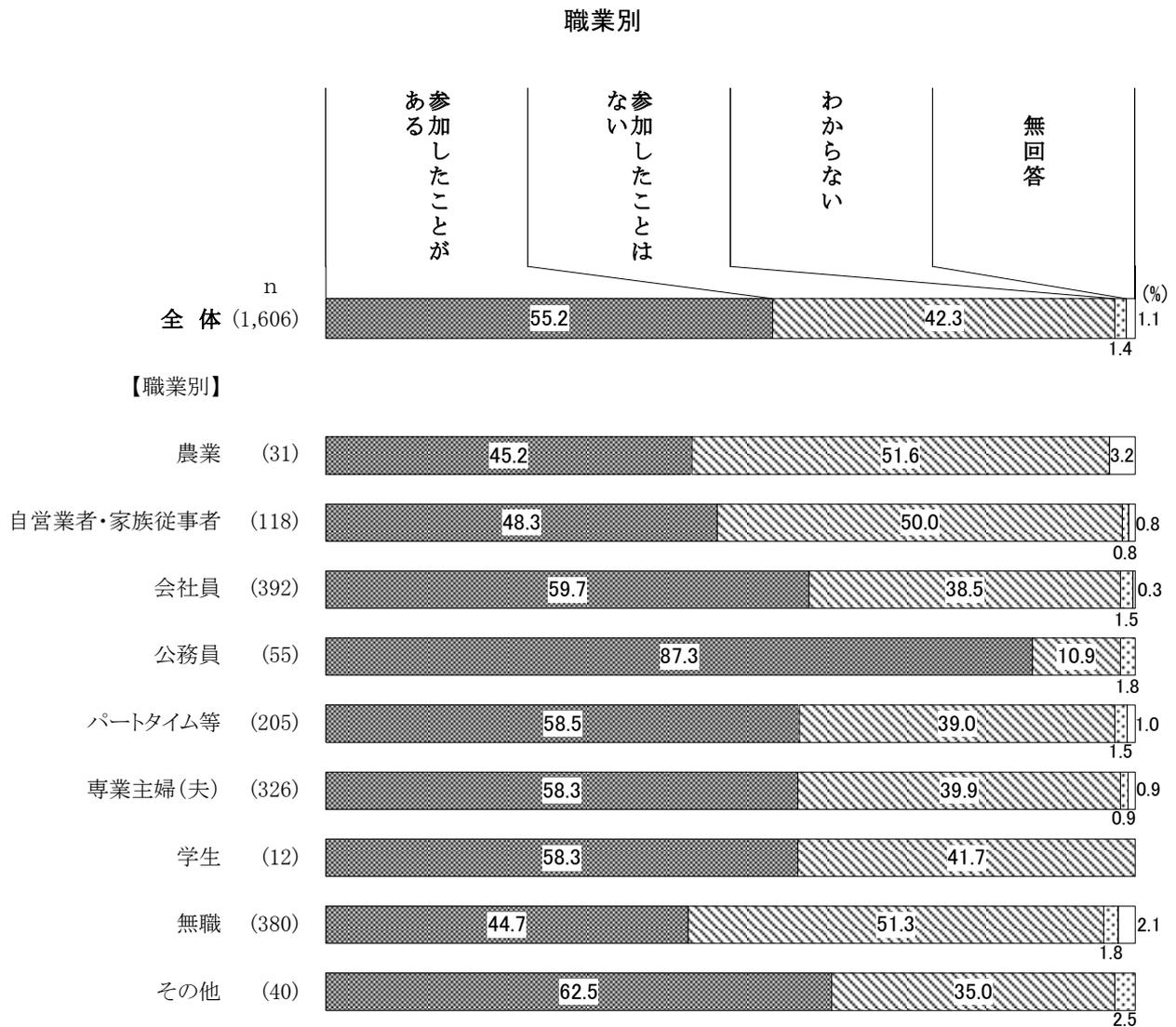
救急・救命講習会または応急手当講習会に「参加したことがある」は55.2%、「参加したことはない」は42.3%となっている。

性別による大きな違いはみられない。

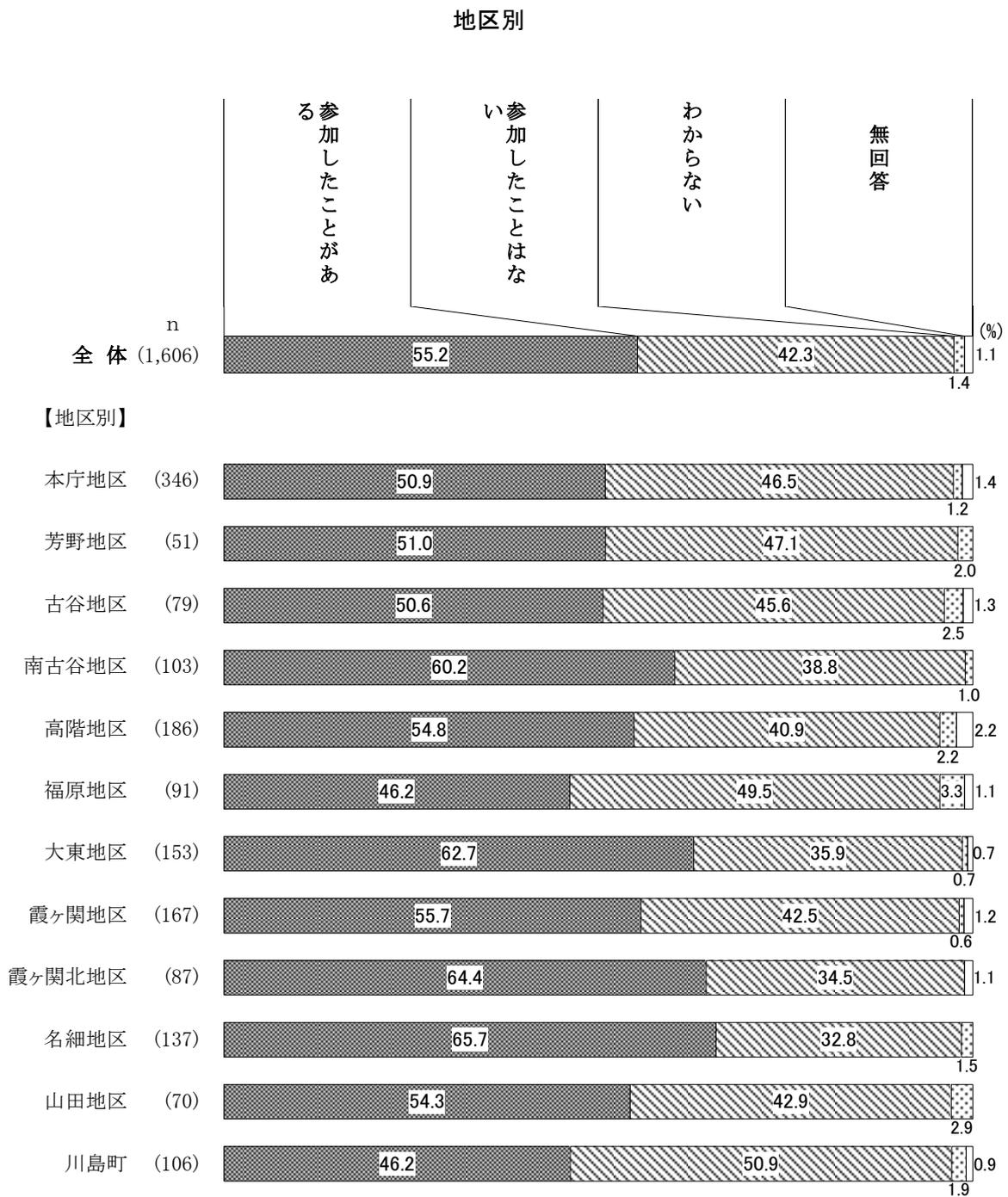
年代別にみると、「参加したことがある」は20～29歳で70.7%と多く、30～39歳、50～59歳でも6割台と多くなっている。65歳以上では唯一「参加したことはない」(49.6%)が「参加したことがある」(46.8%)より多くなっている。



職業別にみると、「参加したことがある」は公務員が87.3%と特に多く、会社員、パートタイム等、専業主婦（夫）でも6割近くとなっている。一方、「参加したことはない」は、農業、自営業者・家族従事者、無職で5割台と多くなっている。



地区別にみると、「参加したことがある」は名細地区、霞ヶ関北地区、大東地区、南古谷地区で6割台と多くなっている。一方、「参加したことはない」は川島町、福原地区で5割前後と多くなっている。

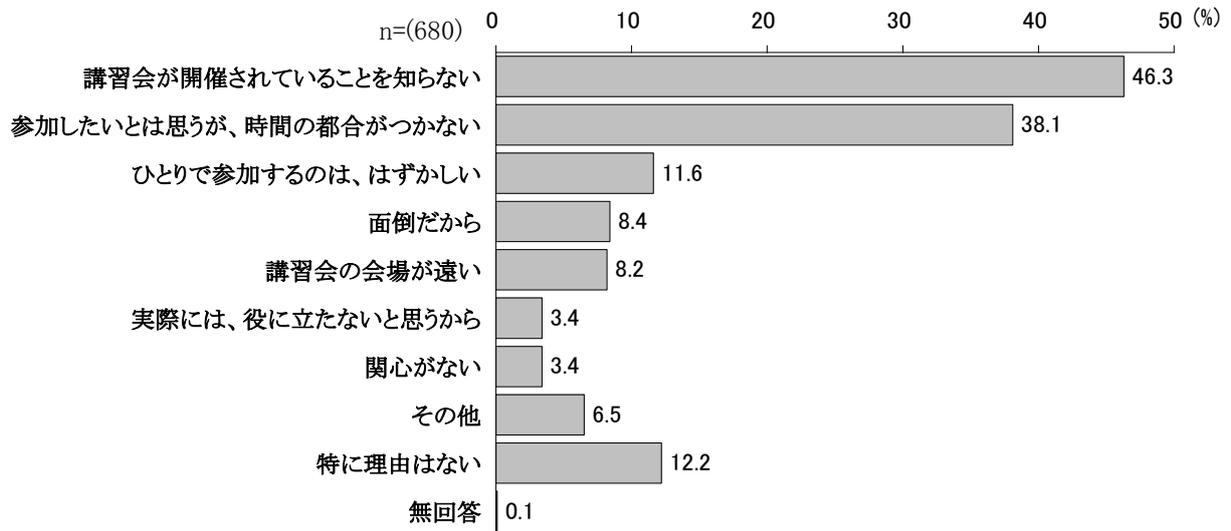


(5) 救急・救命講習会または応急手当講習会に参加したことがない理由

【問9で「参加したことはない」と答えた方におたずねします。】

問9-1 参加したことがない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

(○は3つまで)

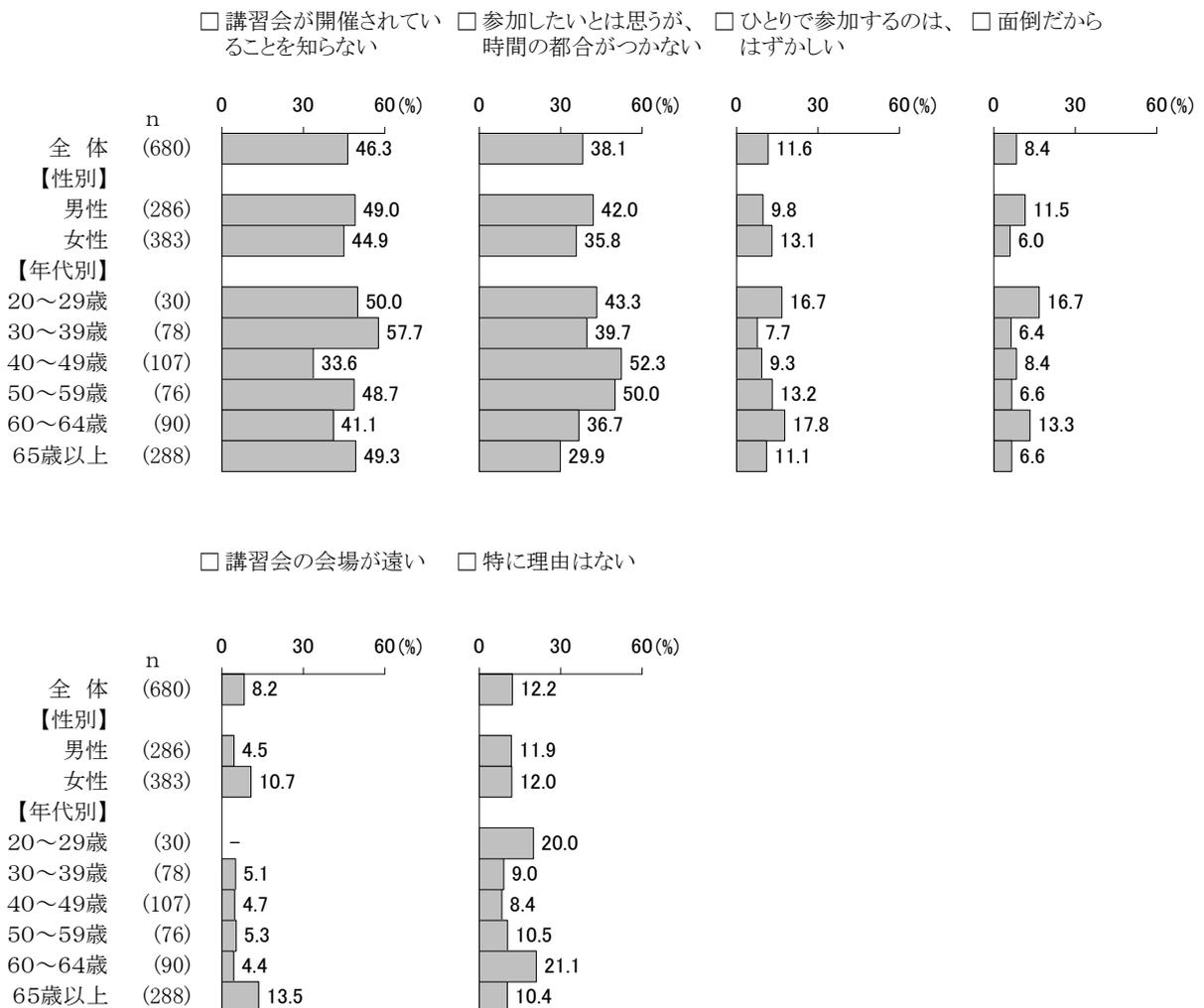


救急・救命講習または応急手当講習会に参加したことがない理由としては、「講習会が開催されていることを知らない」が46.3%、「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」が38.1%とこの2項目が特に多くなっている。以下、「ひとりで参加するのは、はずかしい」(11.6%)などが続いている。

性別にみると、「講習会が開催されていることを知らない」（男性：49.0%、女性：44.9%）と「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」（男性：42.0%、女性：35.8%）は男性でより多く、「ひとりで参加するのは、はずかしい」（男性：9.8%、女性：13.1%）、「講習会の会場が遠い」（男性：4.5%、女性：10.7%）は女性でより多くなっている。

年代別にみると、「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」は40～49歳、50～59歳でそれぞれ5割台と多くなっている。また、「特に理由はない」は20～29歳、60～64歳で2割台と他の年代より多くなっている。

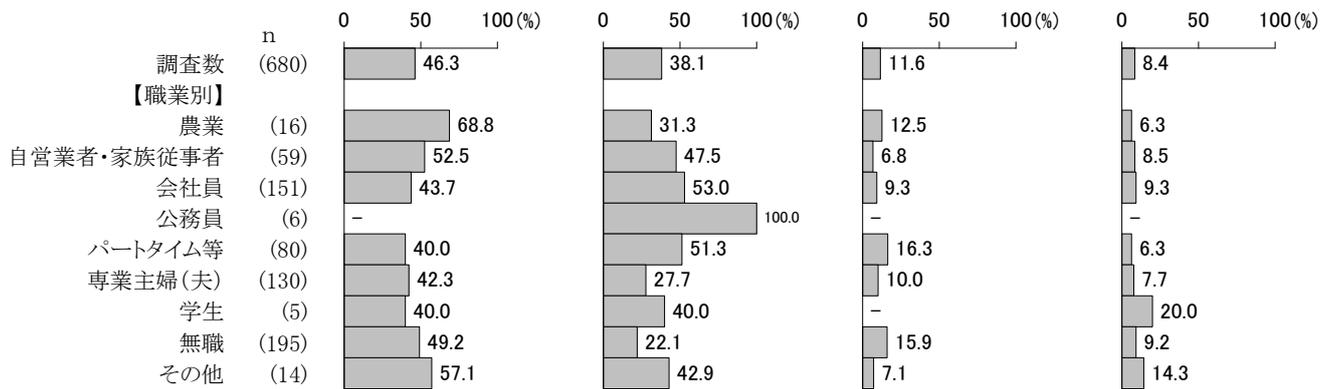
### 性別／年代別 （上位5項目＋特に理由はない）



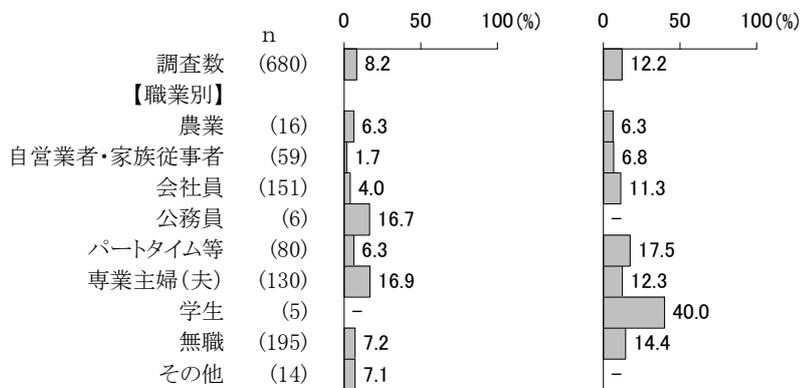
職業別にみると、「講習会が開催されていることを知らない」は自営業者・家族従事者で、「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」は会社員、パートタイム等で5割台と多くなっている。「講習会の会場が遠い」は専業主婦で16.9%と他の職業より多くなっている。

### 職業別 (上位5項目+特に理由はない)

講習会が開催されていることを知らない  
  参加したいと思うが、時間の都合がつかない  
  ひとりで参加するのは、はずかしい  
  面倒だから

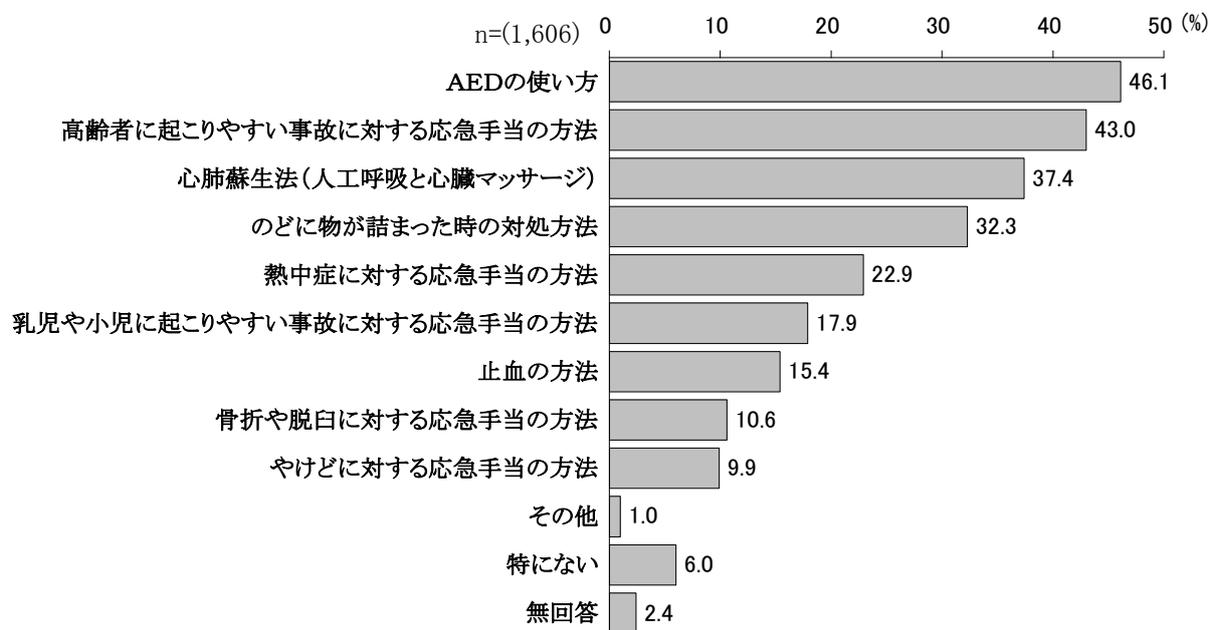


講習会の会場が遠い  
  特に理由はない



## (6) 学んでみたい救急救命・応急手当の方法

問10 あなたは、今後、どのような救急救命・応急手当の方法を学んでみたいと思いますか。  
次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つまで)



今後、どのような救命救急・応急手当の方法を学んでみたいかでは、「AEDの使い方」(46.1%)、「高齢者に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」(43.0%)が4割台、「心肺蘇生法(人工呼吸と心臓マッサージ)」(37.4%)、「のどに物が詰まった時の対処方法」(32.3%)が3割台となっている。この他、「熱中症に対する応急手当の方法」が22.9%、「乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」が17.9%となっている。

性別にみても大きな違いはみられないが、「AEDの使い方」（男性：48.5%、女性：44.9%）、「心肺蘇生法（人工呼吸と心臓マッサージ）」（男性：41.4%、女性：34.6%）は男性で、「乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」（男性：14.5%、女性：20.7%）は女性でより多くあげられている。

年代別にみると、「AEDの使い方」は40～49歳、50～59歳で5割台と特に多くなっている。「高齢者に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」は40歳代以上で比較的多く、「乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」は20～29歳、30～39歳で比較的多くなっている。

### 性別／年代別 上位8項目

